ソイルマネジメント
Soil Management
［第67回］

いわき市に汚泥処理施設が竣工

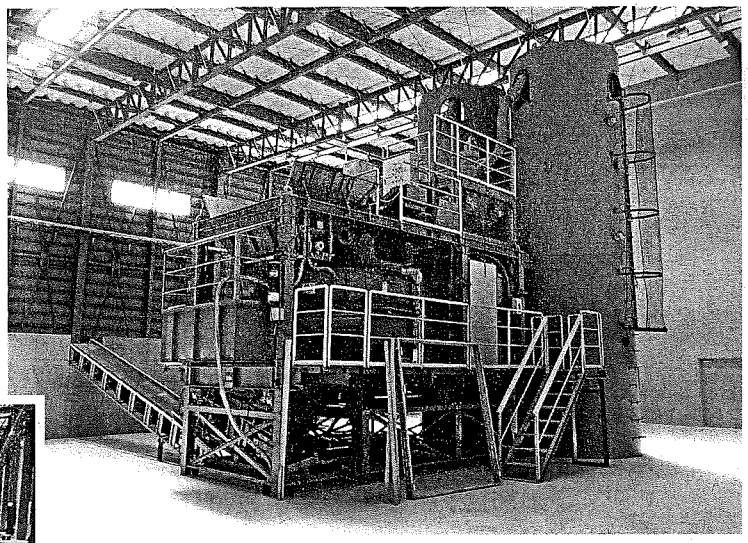
渡辺エコサービス㈱

渡辺エコサービス㈱（福島県いわき市泉町下川大剣1-70、渡辺啓治社長、☎0246-56-7233）は9月、いわき市内の工場地域に汚泥処理施施設を竣工し、11月から本格稼動する。新施設の稼動に向け、2年前に社名を変更した他、本社機能も従前の事務所から移転を図るなど、新たなスタートを切ることとなった。

敷地面積は4000坪で、総工費は約10億円。処理能力は、無機汚泥の造粒固化が日量160㎥（8時間稼動）。受入品目は、汚泥、鉱さい（カラミ、鋳物廃砂、サンドブラスト廃砂及びスラグに限る）とばいじん（石炭火力発電所から発生する石炭灰に限る）。有機汚泥の堆肥化が、日量4.5㎥（4.9t）を2基（計9.0㎥（9.8t））。受入品目は、汚泥、木くず、動物のふん尿、動植物性残さの4種類。汚泥の脱水機は遠心脱水方式による移動式で、日量80㎥（8時間稼動）となっている。

保管容量は、鉱さいが、ばいじんが133t、木くずが43t、無機性汚泥が350t、

新プラント外観



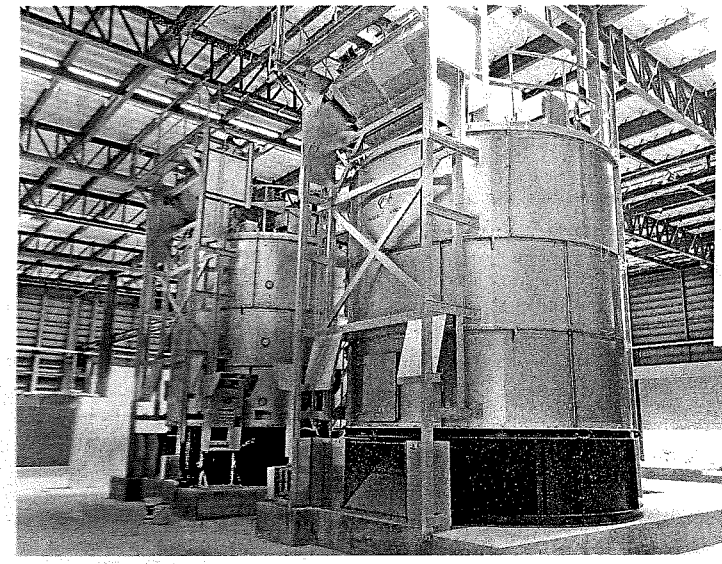
㊧ピットは鉄板で強化
㊨造粒固化設備

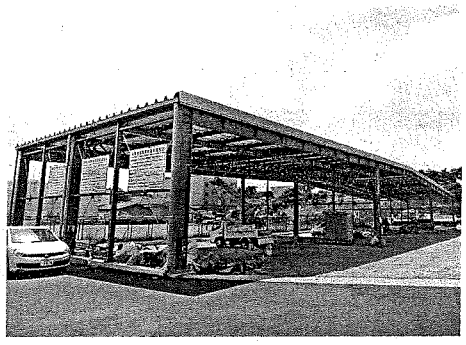
鉱さいが407t。計933tのピットを整備した。また、ピットは耐久性の観点から全面に鉄板を敷いた。

造粒固化した製品は路盤材等として県内で進む道路整備事業などでの使用を見込む。品質管理のため、受入れ段階での夾雑物や放射線量の管理を徹底していく。

事業の見通しとしては、営業エリアは約30台ある車両で機動力を生かしながら福島県全域をカバーする他、隣県の茨城県も想定している。当面は公共工事から発生する建設汚泥を受け入れていく。福島県では県道の側溝土砂の撤去・処理が2020年まで計画されており、短期間で相当量の発生が見込まれるため、県内の貴重な汚泥処理施設として機能させていく。将来的には、下水汚泥等の有機汚泥や生ごみなども積極的に受け入れ、堆肥化し販売していく意向だ。

渡辺社長は「県内事業者や自治体からの問い合わせも多い。処分場の単価も上がっており、早い段階から受入れを本格化していきたい」と話している。





㊧堆肥化設備
㊨車両基地